資材ナビ

果樹かん水設備「棚配管システム」サンホープ

農機の邪魔にならず

果樹栽培では、気候変動による干ばつなどに対応できる、かん水システムが普及している。サンホープが販売する「棚配管システム」は、果樹棚にパイプを設置し、散水ノズルを付けたチューブを接続。上から垂らしてかん水する仕組みだ。ブドウの雨よけ栽培で導入する、埼玉県北本市の酒井雄作さん(64)は、かん水量を確保することで、玉張りの良い房作りに役立てている。

つるして設置 長寿命

一般的なかん水システムは、パイプを土中に埋めて配管する。しかし、このシステムはパイプを棚に固定するのが特徴だ。除草機などの農機を使う作業の邪魔にならず、農機がパイプやノズルを傷付ける心配もない。パイプはポリエチレン製。専用の器具を使ってパイプに穴を開け、チューブを取り付ける。チューブの間隔は、利用者が自由に設定できる。

「棚配管システム」でブドウ園のかん水をする酒井さん(埼玉県北本市で)

「シャインマスカット」を栽培する酒井さんはブドウ園20アールの全てに棚配管システムを取り入れている。同社が提案する3種類のノズルセットのうち、〝頭上かん水型〟の「ハンガースプレーセット」を2016年に導入した。「雨よけ栽培にかん水システムは必須。25年以上も使えるという耐久性の高さに魅力を感じた」と酒井さんはきっかけを語る。就農前の職場で、同社のかん水システムに触れる機会があったことも背中を押した。

酒井さんは約4メートル間隔でチューブ穴を開け、散水直径5メートルのスプリンクラーノズルを使う。散水の範囲が重なるようにしている。ノズルの高さは棚下50センチとした。散水の位置がブドウの房より下になり、かん水による果実のぬれや汚れを防げる。ノズルはスピードスプレヤー(SS)の機体よりも高い位置になるため、作業中にぶつかることもない。「安心して作業できる」とメリットを語る。

労働環境の改善にも

雨よけ栽培では果実の肥大にかん水は欠かせない。「シャインマスカット」の栽培で、酒井さんはかん水量を5日間で30ミリに設定。十分に肥大し、玉張りが良い房を作れているという。特に、水分が必要なジベレリン処理期も適切なかん水量を確保することで、品質を高めている。

酒井さんは「かん水をした後は、園内が少し涼しくなったように感じる。暑い日でも作業がしやすい」と実感する。システムは作業者の労働環境の改善にもつながるという。現在は、手動でポンプの電源を入れているが、今後は自動化することも検討している。

■棚配管システム

果樹の棚に設置するかん水システム。露地、ハウスの両方で使える。夏の高温対策にもなる。

ブドウやオウトウには〝頭上かん水型〟の「ハンガースプレーセット」が向く。ノズルを棚から垂らし、好みの高さに調節できる。傾斜地でも流量が変わらない。

梨には春の凍霜害の防止にも役立つ「アグリスパイクセット」もある。

問い合わせは同社、電03(3710)5675。

チューブでつるしたノズル(同)